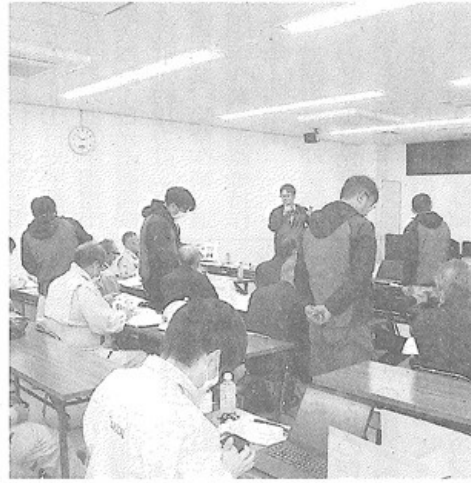


宇管工

設備の知識や技能を習得

学校職員を対象に水廻り研修



座学による講義で知識を深めた

宇都宮市は11月27日、市管工事業協同組合による学校業務職員を対象とした水廻り研修会を、市管工事業協同組合会館で開催した。当日は学校業務職員ら14人に、組合の教育技術委員会および青年部の15人が給排水設備についての講義を行ったほか、実技による指導も行った。

市の学校業務職員向け水廻り研修会は、2013年度から実施しており、今回で11回目となる。機動班の日常業務に必要な水廻りに関する知識や技能を向上することで、学校の教育環境を向上させることを目的としている。

冒頭、市管工事業協同組合の小牧伸敏副理事長は「市職員の皆さんが、



小牧副理事長



修理などの技能を習得した

日常的に遭遇する水回りのトラブルに対し、簡単かつ応急的な対処法を身に付けることで、業務の円滑化と児童生徒の安心な学習環境の維持に直結する。研修会では、最前線で活躍している青年部が指導するので、知識や技術を習得してほしい。当組合としても今回のような活動を通じ、社会的責務のひとつとして市のまちづくりに貢献していきたい」とあいさつした。

同組合の教育技術委員会の熊谷圭司委員長も「今回の研修会は充実した内容となり、疑問に思ったことに答えられる技術者を用意したことで、市の方々は積極的に質問してほしい」と述べた。市の学校管理課施設維持グループの小林弘明係長は、今回の研修会を今後の業務に役立てていきたいとし、研修会の機会を設けた市管工事業協同組合に感謝の意を表した。

講習では最初に会館の会議室で、座学による講義を行った。学校の施設整備における給排水の基本構造や図面の見方などについて、組合が資料やスライド映像を使いながら解説し、市職員らは熱心に聞き入るほか、積極的に質問も行った。次に、組合会館敷地内で実技講習を実施した。蛇口や便器の水漏れ修理などについて、組合が実際に設備を用意して指導し、市職員らは技能を習得していった。